

令和3年度 学校教育自己診断 まとめ

生徒

○分析

「安心して授業を受けることができる」、「生徒指導がしっかりしている」という学校教育の根幹をなす学業と生活指導について、肯定的意見が大きく増加した。特に対話を意識した指導を心掛けたことにより、「先生の指導は納得できる」、「努力したことを認めてくれる」、「生徒の話をよく聞いてくれる」、「悩みや相談に親身になって応じてくれる」、「保健室や相談室で気軽に相談できる」などの項目において、肯定的意見に伸びが見られる。

「授業が分かりやすい」の肯定的意見が上昇した背景には、ICT 機器利用があることが推察される。今年度、多くの教員が i-Pad や Chrome OS を授業に利用している姿が見受けられている。動画や資料など視覚的な教材を提供することができている。学習内容の定着度との関連性は今後、検証する必要があるが、次年度からの ICT 教育の指針につながるデータといえる。

「学校行事が充実している」については、今年度も中止となった体育祭の代替として、各学年が球技大会やミニ運動会を開催したこともあり、コロナ前の数値(74)に近付いた。

「学校はいじめやもめ事など見逃さずに対応してくれる」は、肯定的意見が上昇している。いじめ対策委員会は今年度6回開催された(目標は各学期に1回以上)が、いじめと認知した案件は、すべて問題解決に至っている。教員が協力して、情報収集や生徒のケア、指導を行うことなどができたことが、早期発見、早期解決につながっている。

「学校に行くのは楽しい」の肯定的意見が横ばいである。

「進路情報を知る機会がある」に関して、2年生で肯定的意見が大きく上昇した。3年生に向けての心構えができつつある。しかし、それでも(肯定的意見の)学校平均を下回っており、取り組みの目的や意義をきちんと理解させ、進路に関する行事の意識付けをきちんと行うことで、自分たちのための行事が用意されていることを理解させなくてはならない。

○課題

2年生の肯定的評価の数値が、昨年度(1年生)と比較すれば上昇しているものの、他学年と比較して低い水準にある。4月から最高学年として学校をけん引する役割を担う彼らの気持ちをこれまで以上に学校へ向けさせることが、後輩たちにも好影響を及ぼし、学校全体の活性化につながる。また、納得のいく進路を実現させるためにも、事前指導の見直しなどを含め、彼らの進路への興味関心を早急に高める必要がある。

保護者

○分析

生徒と同様に「悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的意見が伸びており、指導方法の転換が一

定の評価を得ていることがうかがえた。

「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」で下降傾向。保護者記述欄には体育祭の中止、文化祭の縮小などを残念がる声が複数あった。

○課題

「悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的意見のうち、半数以上は「ややそう思う」であることや、否定的意見も依然として50近くあることから、この数値に満足することなく、PDCAサイクルを機能させていく必要がある。

保護者の学校運営に対する評価はほとんどの質問項目で上昇している中、「学校は家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定的意見が64⇒67⇒64と下降している。このことから、家庭との連携を十分に行うことで、情報共有することが、保護者の学校理解につながり、これまで以上に保護者と学校との協力体制が構築できるのではないかと考える。授業参観や学校行事への参加率を高め、生徒たちの頑張っている姿を見ただくことも、重要であり、学校へ足を運んでいただくための仕掛け、工夫を考える必要が大いにある。

教員

○分析

「校則について話し合う機会がある」が昨年度の肯定的意見を大きく下回った。

○課題

昨年度、職員会議の時間を利用して、服装に関する校則の意見交換や見直しを実施したが、今年度そこまでの議論が行えていない。職員会議の在り方が問われる中、どのような形で教員が話し合う時間を確保していくのかを考えていかねばならない。

校則に限らず、学校行事や保護者参画、かわち野の魅力発信など、毎年ブラッシュアップできる環境が必要である。